

西播磨地域 高校生防災サミット



日時 令和元年 11 月 4 日（月・振休）
10 時 30 分～16 時 00 分

場所 兵庫県立先端科学技術支援センター

第 9 期西播磨地域ビジョン委員会 安全第一チーム

目次

当日プログラム、実績	1
各高校の防災への取組発表	2
紙皿作成、ワークショップ	8
防災に関する展示	11
その他記録写真	13
【付録】防災知恵袋	14



活動主旨

近年、日本では台風をはじめとした豪雨災害など多くの自然災害が発生し、各地に甚大な被害が出るなど、防災・減災の取組の重要性が再認識されつつあります。

西播磨地域高校生防災サミットは、西播磨管内の高校生に防災・減災の取組を発表していただくとともに、災害時に役立つプログラムを体験・見学していただくことで、防災意識の向上を図ることを目的としています。

このサミットは、西播磨地域ビジョン委員会が企画し、準備を進めてきました。西播磨地域ビジョン委員会は、兵庫県知事の委嘱を受けた64名の公募委員が、西播磨地域の目指す姿を示した「西播磨地域ビジョン」の実現に向けて7つのチームに分かれて活動を展開しています。このサミットの中心として活動しているのは、地域住民の防災意識向上をテーマとする「安全第一チーム」です。

2017年に続いて2回目の開催となる今回は、各高校の発表を聴くだけでなく、体験して学ぶことのできるワークショップを実施することで、より実践的な学びを得ていただけるよう企画しました。また、高校生による高校生のための催しとして、司会から記録写真、そしてワークショップに至るまですべてを高校生に担当していただきました。

主催

西播磨地域ビジョン委員(第9期)

兵庫県西播磨県民局

1. 当日プログラム

時 間	内 容
10:30~10:45	■開会のあいさつ 安全第一チームリーダー 田淵 誠人 兵庫県西播磨県民局長 遠藤 英二
10:45~11:15	■活動発表 兵庫県立舞子高校
11:15~11:45	■活動発表 神戸市立神港橋高校
11:45~12:00	■ワークショップⅠ 「紙皿作成」 兵庫県立赤穂高校
12:00~12:30	■ワークショップⅡ 「パッククッキング」
12:30~13:30	■昼食（作成したパッククッキングの試食）※高校生対象 ■ブース展示見学・体験
13:30~13:40	■来賓紹介
13:40~15:50	■活動発表 各校 15分程度 兵庫県立相生産業高校 兵庫県立相生高校 兵庫県立赤穂高校 兵庫県立龍野北高校 兵庫県立太子高校 兵庫県立山崎高校 兵庫県立千種高校 兵庫県立大学附属高校
15:50~16:00	■閉会のあいさつ ビジョン委員会 委員長 伊藤 一郎

2. 実績

参加者数 計 143 名

高校生(10校 49名)

活動発表

※兵庫県立相生産業高校、兵庫県立相生高校、※兵庫県立赤穂高校、兵庫県立龍野北高校
兵庫県立太子高校、兵庫県立山崎高校、兵庫県立千種高校、兵庫県立大学附属高校

※兵庫県立舞子高校(ゲスト校)、※神戸市立神港橋高校(ゲスト校)

※をつけた高校はブース展示も実施

司会

兵庫県立相生高校

写真撮影

兵庫県立太子高校

主催・協力(27名)

西播磨地域ビジョン委員、西播磨地域内の防災士

傍聴者等(67名)

3. 各高校の防災への取組発表

兵庫県立舞子高等学校(ゲスト校)

【舞子高校環境防災科とは】

2002年4月、阪神・淡路大震災の教訓をもとに兵庫県で進められてきた「あらたな防災教育」を推進すること、地域において防災活動のリーダーシップをとれる人材を育成することを目的として設立された。

【環境防災科の取り組み】

紹介したのは生徒の自主的な取り組みの一部である。いずれにおいても「共に」取り組む相手を意識し、その立場や視点に寄り添うことが大切だと気づかされる。

1. 特別支援学校との交流・共同学習

災害発生時において要援護者となる障害のある方が、少しでも自分自身の力で命を守る行動がとれたり、周囲に助けを求める術を持っていたりすることができるよう、障害の特性を踏まえたプログラムを特別支援学校の先生方と一緒に考え実施している。

2. 防災出前授業

学校周辺地域および南あわじ市の小・中学校を対象に実施している。それぞれの学校が抱える防災についての課題や児童生徒の興味関心を踏まえ、舞子生が中心となり授業内容を考えている。

3. ネパール訪問

2002年より訪問を続けている。2015年4月に発生したネパール大地震の際は募金やメッセージフラッグ作成などの支援を行った。近年は地震からの復興状況、防災への取り組みを視察するとともに、包括的
学校安全のための「スチューデントサミット」に参加し、ネパールの学生たちと交流を深めている。

4. 地域交流(防コミ・南あわじ市)

地域で開催される祭りや防災訓練、時には防災会議に参加し関係を深めている。回を重ねていくと顔見知りになる方もいらっしゃる。平時のこのような「つながり」が災害の「共助」につながると実感できる。



◆神戸市立神港橋高等学校(ゲスト校)

【活動の概要】

東日本大震災の支援活動からスタート。被災地の様子や人々の想いを語り継ぎたいと考えるようになり、今後の災害に備える社会を願う。また阪神・淡路大震災経験地域としての想いを擦り合せ、防災意識の啓発と子供達に防災を考えるきっかけ作りを継続している。

【活動の3本柱】

- ①毎年ひとつ防災や支援に関わるグッズを製作し販売(売上利益全額を東北や熊本に渡す)。商品を手にとっていただくことで語り継ぎができて、防災意識の喚起を願う。
- ②子供達向けに、防災エプロンシアター(地震、火災、水害、熱中症、インフルエンザ、歴史と継承)を上演。身近なことから興味を持てるように願う。
- ③キャンドル、ソーラークッカー、建物補強などのワークショップを実施。楽しくものづくりをしながら、様々な角度から防災を考えて欲しいと願う。

【活動の発表】

- ①被災した地域の方々と交流することで学び帰神後に情報の発信を行う(発表や冊子の配布)
- ②防災について他の高校生達と共に学ぶ、活動報告をする(兵庫県防災JL、全国防災JL)

【活動の成果】

- ・地域の方との交流が増え、活動への理解と応援をいただき、活動が活性化している。
- ・防災・減災の学習も深く取り組むようになった。
- ・「誰にでもできること」を繰り返し実践することで、スキルを上げ、新しい自分の発見につながる。

【活動の工夫・ポイント】

- ・防災以外のイベントにも参加することで、視野が広がり工夫し活動を広げている。
- ・継続することでしっかりした活動基盤が形成される。



◆兵庫県立相生高等学校

【挨拶運動】

相生市では、市をあげて挨拶運動に取り組んでいる。生徒会のメンバー15名と、1学年の生徒約20名が交代で月1回、始業前の7時からJR相生駅北側および南側のロータリーで、自治会の方々とともに行き来される方々に挨拶をしている。この運動を通して顔見知りの方が増え、親密なコミュニティづくりにつながり、災害時の声の掛け合い・支え合いの一助になると自負している。



【天然記念物の保護】

県内で唯一相生湾の干潟に群生するシバナの保護活動である。上流の砂防ダムの建設で、相生湾への砂の流入が減少し、絶滅の危機にあるシバナを救う取組である。堆積した砂を土嚢に詰め、海岸の砂浜を拡張させ、シバナの生育環境の保全に向けて、夏休みに運動部員約60名が約1500袋の土嚢運びを行った。この体験を通して自然環境の保護・河川の保全の重要性を学んだ。



【防災避難訓練】

毎年実施している防災避難訓練や夏休み前のAED講習に真剣に取り組むことで、災害発生時における「自助」「共助」の具体的な知識や技術が少しずつ身についている。また、生徒一人ひとりの防災意識が向上するとともに、防災・減災における日々の備えの重要性について改めて学んだ。

◆兵庫県立相生産業高等学校定時制課程

兵庫県立相生産業高等学校(定時制課程)は、「働きながら学ぶ専門高校」である。多くの生徒が朝から夕方まで仕事(アルバイト)をしながら、夕方から学校で勉強をしている。また、機械科の特色を活かし、ベンチや飛び出し坊やの設置等、ものづくりで地域貢献をめざしている。主な学校行事は、地域と共同して計画し、防災への取り組みについても日頃から地域連携を図っている。

毎年、4月・9月には火災を想定した避難訓練、消火訓練、1月・3月には地震・津波の自然災害を想定した避難訓練、AEDなどの救急救命の取り組みを実施している。その他にも、平成28年度には、兵庫県CGハザードマップの体験学習から、学校周辺地域は、津波被害の可能性を知り、学校周辺や西相生駅周辺に避難所マップや避難経路案内看板の設置をし、意識啓発に尽力した。平成29年度には煙体験ハウスでの煙の中での避難訓練、平成30年度には起震車による揺れの体験、本年度は土嚢作り、土嚢積み等のより実践的な体験を実施している。

これらの実践的な訓練や体験により、様々な災害に対して対応できるように、学校と地域が緊密に連携している。また、グラウンドに校庭貯留や雨水幹線管渠が完成し、学校をとりまく周辺地域の治水対策も飛躍的に進んでいる。



◆兵庫県立龍野北高等学校

【本校の防災への取り組み】

地域と連携した「地域拠点型合同防災訓練」の実施、3年生対象学校設定科目「防災」の実施。

【地域拠点型合同防災訓練について】

- ・生徒、職員の参加だけでなく、近隣住民や小学生も参加し、その他にも協力団体として自衛隊、消防署員、防災士、震災学校支援チームEARTH、国土交通省など総勢1100名で実施された。
- ・災害設定について
 - 1 山崎断層で巨大地震が発生
 - 2 多数の周辺家屋の倒壊が見られ、一部で火災が発生
 - 3 本校体育館が避難所開設



【防災訓練の実施内容】

- ・それぞれの学科の特色をいかした、訓練を実施した。
- ・土嚢作り、負傷者搬送訓練、負傷者の応急処置訓練、倒壊家屋救出訓練、救援物資仕分け訓練、炊き出し訓練、応急処置訓練、心のケア訓練など地域・専門機関の協力を得ることで様々な訓練を実施した。
- ・実際の地震や氾濫河川からの激流の恐ろしさを体験できる、起震車や激流体験コーナーもあり、参加者が身をもって災害の恐ろしさを体験する機会にもなった。

【防災訓練の効果】

防災意識の向上、実際の災害時にも主体的に行動することができる「自信」に繋がられた。

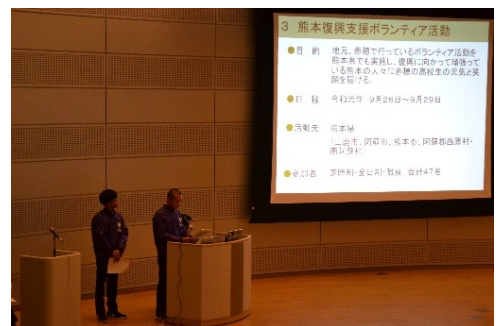
◆兵庫県立赤穂高等学校定時制課程

赤穂高校定時制は、今年度防災教育推進校の指定を受け、防災、減災についての取組を行っています。年2回行われる防災教室では、防災士の方を講師として、防災に必要な知識と技能を学びます。

9月に3泊4日の日程で実施された熊本復興支援ボランティア活動では、普段地元赤穂で行っているソルトアート体験など、被災者の方との交流を中心とした活動を行いました。

また、学校に隣接している松原町で、毎年行われる避難訓練にも参加します。この訓練では、約150名の方が赤穂高校に避難されます。日ごろから住民の方との訓練に参加することで、地域の方と顔見知りになり、避難時の動きを知る機会となります。

昨年度の1月17日にはキャンドルで「1.17」と、心を込める意味で「ハート」をつくり、阪神・淡路大震災で亡くなった方を追悼しました。この行事は、「阪神淡路大震災を忘れない、伝えていく」という意味も含んでいます。今年度は阪神淡路大震災から25年を迎える年です。震災を体験していない私たち高校生が、どのように受け継ぎ伝えていくかが、今後の課題になります。災害を自分事としてとらえ、自分達にできることを精一杯やっていきたいと思えます。



◆兵庫県立山崎高等学校

【地域とともに歩む防災・減災プロジェクト】

兵庫県立山崎高等学校は3つの学科に分かれており、1学年6クラス計18クラスの学校です。まず山崎高校や宍粟市が抱える課題について述べます。山崎高校は山崎断層の真上に位置し、いつ地震が起きてもおかしくない状況にあります。また人口減少と超高齢社会が予測される宍粟市では、災害の際に地域を担う高校生が率先して行動しなければなりません。このような視点をもって防災減災活動に取り組んでいます。

まず本校の生活創造科の取り組みです。本校生活創造科は、防災・減災活動を生徒自身が企画・運営して7年目になります。平成30年度のテーマは「非常時における食事」です。そのために、

①地場産業の「揖保乃糸」の防災麺の試食・検討 ②防災ワークショップの実施 ③ポリ袋調理

④防災体験活動の企画・運営 ⑤「非常食ガイド」の作成・配布

などを行いました。このような取り組みを毎年、「防災未来賞『防災甲子園』」に応募しており、高校生部門において全国1位である「防災大賞」を2年連続受賞しました。

次に、全校防災体験活動です。昨年12月14日に全校生が各分野に分かれて防災体験活動を行いました。それぞれの活動内容は、

①木造仮設住宅の建設体験(森林環境科学科) ②土嚢積み・ロープワーク体験(1年)

③防災食体験(2年、生活創造科) ④煙体験・搬送応急処置体験(3年) ⑤「千人鍋」(生徒会執行部)

です。各学科の特長を活かした有意義な体験となりました。

まとめとして、山崎高校での防災・減災活動は、生徒自身が災害について具体的に考え、試行錯誤するものとなりました。また、地元企業や消防署など地域との連携による活動をすることができました。さらに、防災ワークショップや防災食ガイドなど高校生が地域に防災・減災を発信することができました。これからもこれらの活動を継続・発展していきたいと思えます。



◆兵庫県立千種高等学校

千種町は宍粟市の北西部に位置し、人口約2800人の山々に囲まれた自然豊かな町である。千種町の人口について調べた結果、わずか2年間で高齢者以外の人口が300人以上減少している一方で、高齢者の人口は変化していないことが分かった。少子高齢化が急速に進んでおり、災害時に要援護者を援護できる若者が少なくなっていることが課題である。

千種高校では、過去に、町中心部の立体ハザード模型の制作や、地域連携総合防災訓練、宍粟市総合防災訓練などを行ってきた。一昨年度より、防災士の出前講座を受け、今年度は、段ボールベッドづくりや毛布と棒を使った担架での救助訓練などを行った。また、昨年度は、Jアラート発令時のシェイクアウト訓練と火災発生時の避難訓練を行った。

高校生にできることとして、これまでに得た知識や実際に災害にあった経験を地域の大人や子どもたちと共有して、町全体の防災意識を高めていきたいと考えている。また、過去の災害情報を生かした防災マップを制作し、地域の方々と共有していきたい。そして、実際に災害が起こったときには率先して地域の方々と連携して避難をし、その後で、可能な範囲で救助作業に取り組んでいきたいと思う。



◆兵庫県立太子高等学校

【「私たちにできること」～震災学習・基本総学・修学旅行を通して～】

昨年春、修学旅行で東北地方に行くことが決定した。1年次から主体的に「震災学習」に取り組んできた内容について年次行事、総合的な学習の中での学び、修学旅行での活動について発表した。

【震災学習の内容】

- ・講話：東日本大震災での看護活動（1年次3月）
- ・講話：阪神・淡路大震災について（2年次4月）
- ・実習：HUG(避難所運営ゲーム)（2年次7月）
- ・アクティブラーニング：夏季休業中の課題(調べ学習)について（2年次9月）

【基本総学の内容(2年次総合的な学習の時間)】

- ・地震について知る。(4月)
- ・「もし〇〇で地震が起きたら」について考える。(5月)
- ・過去の災害について知る。(6月)
- ・100円ショップの商品で非常用持ち出し袋の中身を作る。(6月)
- ・防災頭巾・非常用持ち出し袋を作る。(9,10月)

【修学旅行の内容(東日本大震災に触れる)】

- ・旧気仙沼向洋高校(伝承館)訪問
- ・南三陸震災学習プログラム～旧戸倉中学校と旧防災対策庁舎(献花台)を見学～
- ・ホテル観洋の女将さんから講話
- ・宮城県立松島高校 観光科2・3年生との交流
- ・木の屋石巻水産訪問

【以上の内容から学んだこと】

(1)防災の意識

- ・楽観バイアスを持たない
- ・家族で避難場所を確認する
- ・災害に対する備えをする
- ・減災の意識を強く持つ
- ・情報をどう受け取るかについて考える

(2)人としてどう生きるか

- ・やれると思ったことは行動に移す
- ・新しいことにチャレンジする
- ・生きていることで何でもできる
- ・人は人に生かされている

今回、年次としての取り組みを発表した。太子町は比較的自然災害の被害が少ない地域であるが、楽観バイアスを持たず、毎年行っている発災型防災訓練などを通して地域の方と連携し、防災意識を高めていきたい。



◆兵庫県立大学附属高等学校

本校では防災活動として県民局の方に協力いただき、簡易担架や段ボールベッドの作成など災害時に身近なものを使った防災について学んでいる。また、校内での避難訓練だけでなく、学生寮での避難訓練を行っている。寮生活内はひとりひとりが自立して生活している分、より防災についての知識を持っていないといけないと感じた。

最近、生徒会で防災についてのアンケートを行った。その中で「アレルギーや持病への対策について」の問いに対しては「はい」と答えたのは全体の1/4しかなく、防災についての活動の際にあまり注意喚起をしていないという事も1つの原因にあるのではないか、という結論に至った。

アンケートを通して、本校は標高が高く、寮も海拔300m以上ある所に位置しているのが普段あまり災害について意識する機会というのが少ないのが現状である。保護者や大人と共に防災に対する意識を持つことはできているので、生徒自身で防災に対する意識を持ってもらうために「アレルギー対策」のように自分自身の身を守ることを積極的に考え、共有していきたい。



4. 紙皿作成

◆紙皿作成指導(兵庫県立赤穂高等学校定時制課程)



紙食器を作ろう 2019.11.4 西播磨地域高校生防災サミット

1 折り目をつくり、しゅうめい 両側を畳む

2 4つの角を均等に三角に折る

かど せんどう さんかく

この折り目に合わせて折る

3 はみ出した部分を外側に折る

はみだしたぶぶん ぐわいそく

4 4つの縁を垂直にして、箱にする

よち せいじやく

5. ワークショップ

パッククッキングとは、ポリ袋に食材を入れて、湯煎で火を通す調理法です。

カセットコンロ、鍋、水、ポリ袋(加熱するため必ず高密度ポリエチレンで0.01mm以上の厚さのものを使用)があれば、ガスや水道が止まっても調理をすることができます。1つの鍋で複数の料理が同時に調理でき、水が汚れないので、何度でも調理できます。食べる時もポリ袋から直接食べれば、洗い物も出ません。

今回のクッキングでは、西播磨地域ならではの優れた加工食品を選定する「西播磨フードセレクション」で受賞した食品を使用しています。

【ポリ袋で炊くご飯】

材料(1人前) 米 1/2カップ、水 110~120ml、ポリ袋 1枚

- 手順
- ① ポリ袋に米と水を入れ、そのまま15分ほどおいてヌカ臭さを取る。中の空気を抜き、上の方で口を固く結ぶ。
 - ② 鍋に湯を沸かして①を入れ、火を弱めてフツフツしている状態を保ちながら25~30分加熱する。空気が膨張してくるが、触らないこと。
 - ③ 火を止めて鍋から取り出し、そのまま10分ほど蒸らして出来上がり。

今回は、白米にふりカキをかけて食べました。

ふりカキ

(兵庫県立相生産業高等学校広報部「ティピアス」) 牡蠣を蒸す際に出る、栄養価の高いエキスを活用。磯の香、海と畑の幸16種類の絶妙なハーモニー。食品添加物不使用。



【乾物サラダ】

材料(5人前) 水 100cc、寒風切り干し大根人参入り 40g(1袋)、カットわかめ 5g、コーン缶(85g)1缶、ドレッシングなどの調味料(今回はひまわりドレッシングを使用)大さじ4、ポリ袋大 1枚

- 手順
- ① 切り干し大根をキッチンバサミで短く切る。
 - ② ポリ袋に①とカットわかめを入れ、約100ccの水を入れてよく揉んで戻す。
 - ③ ②にコーン缶を汁ごと入れて一緒に混ぜる。
 - ④ ③にお好みの調味料(ドレッシングなど)を入れて混ぜる。



ひまわりドレッシング(南光ひまわり館)

佐用町で無農薬栽培したひまわりの一番搾り油を使用。口当たりが良く麺類にも合う。オレイン酸、ビタミンEを含む。

寒風千切り大根 自家栽培ニンジン入り

((株)博農)

たつの市御津町の干拓地で減農薬栽培した兵庫県認証食品の大根とニンジンを使用。寒風の寒風による自然乾燥天日干し。



【味噌棒主】

材料(1人前) 味噌棒主 1本、お湯 180cc

- 手順
- ① 味噌棒主のラップを外して、箸の部分を上にして紙コップに入れる。
 - ② お湯を180cc注ぎ、箸で混ぜる。

おいしい味噌棒主

(農事組合法人三日月特産加工組合)

佐用もち大豆を使用した三日月味噌と地元産野菜を使用。お湯を注ぐだけでおいしい味噌汁が味わえます。

[写真:上吉川祐一 薬師山写真館]

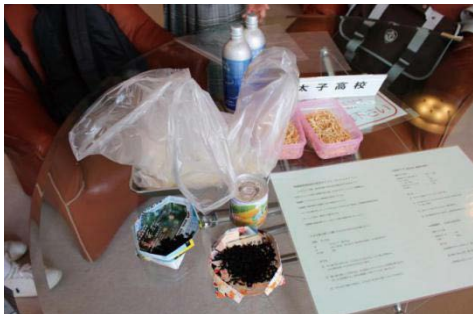


西播磨フードセレクション

インスタグラム

ホームページ



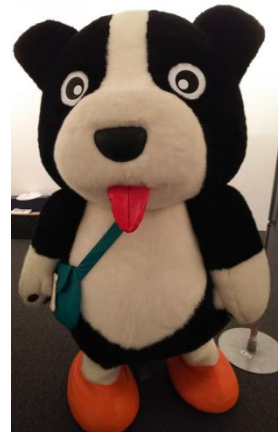


6. 防災に関する展示

◆兵庫県立舞子高等学校



◆神戸市立神港橋高等学校



◆兵庫県立相生産業高等学校



◆兵庫県立赤穂高等学校



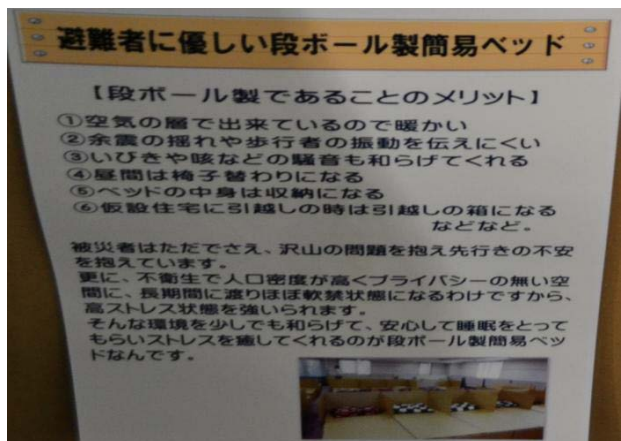
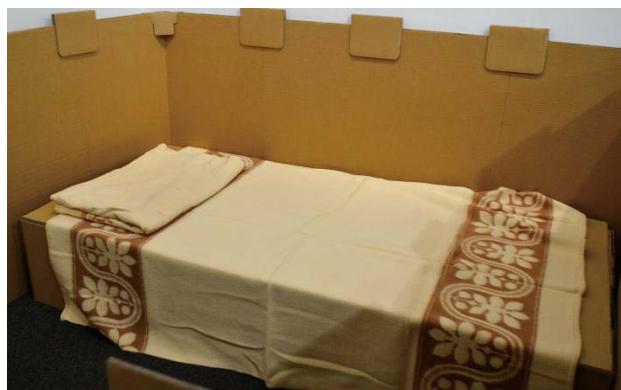
◆非常持ち出し品



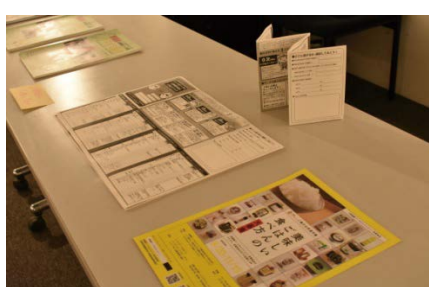
◆簡易トイレ



◆段ボールベッド



7. その他記録写真



8. 【付録】防災知恵袋

◆ローリングストックで1週間分の食料を備えよう！

これまで、備蓄は3日分で十分といわれてきましたが、甚大な被害が想定される南海トラフ巨大地震では、「1週間以上」の備蓄が望ましいとの指摘があります。

災害時は非常食のイメージはありませんか？一般的な非常食は、賞味期限が3～5年、水や加熱なしでそのまま食べられるものが主流で、バリエーションが限られてしまいます。そういった非常食を1週間分となると、準備が大変そうに感じますが、ローリングストック法を用いると、普段の食料を少し多めに買い足すだけで、備蓄できます。

ローリングストックとは

ストック(備蓄)をローリング(回転)することです。

台所を見回せば、乾物やインスタント、レトルト食品など、賞味期限が長く、災害時でも食べられそうなものがあるはずです。そういった、普段から食べられている食品を、使い切る前に補充しておくことで、1週間分の食料を確保することができます。

災害時の食事シミュレーション

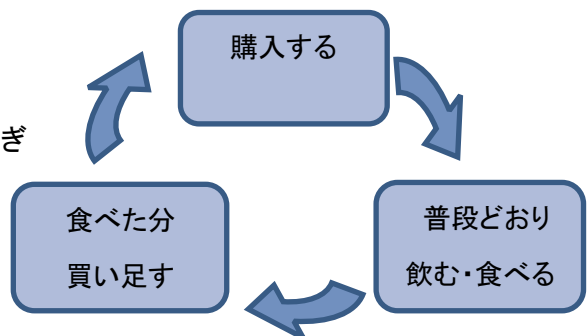
1 ～ 2 日	<p>冷蔵庫・冷凍庫の食材を活用</p> <p>冷蔵庫に食材を買い置きし、冷凍庫にもご飯や食パン、野菜、冷凍食品等の備蓄を。</p> <p>食パンや野菜等は自然解凍により食べる事も可能。</p> <p>水は溶かして飲料水として活用も可能。</p> <p>停電時、クーラーボックスや保冷剤等を活用して食材の保存を。</p>	<p>調理器具の備え</p> <p>カセットボンベ1本で約60分使用可能。</p> <p>1ヶ月で約15本必要(1日30分使用の場合)。</p> <p>カセットコンロ・ボンベ</p> <p>停電時等、冷蔵庫の食材や非常食を調理するために必須。</p>
3 ～ 7 日	<p>ローリングストック法で備蓄した非常食を活用</p> <p>ローリングストック法</p> <p>定期的(1ヶ月に1、2度)に食べて、食べた分を買い足し備蓄していく方法。食べながら備えるため、消費期限が短いレトルト食品等も非常食として扱えます。</p> <p>その他備蓄しておくの良いもの</p> <p>乾麺 (フレンチパスタ等) ゆで時間の短いものを。</p> <p>缶づめ 野菜や果物の缶詰で栄養を。</p> <p>フリーズドライ食品 (スープ等) スープ類は食欲が無い時でも摂取可能。</p> <p>※上記の日数・組み合わせは一例です。ローリングストック法等で1週間分の非常食を備えておくことより安心です。 ※1週間分の飲料水、また生活用水も備えましょう。飲料水は1人1日3ℓ×家族分の準備を。</p>	<p>その他のアイデア</p> <p>乾物 ミネラル・食物繊維の補給を。</p> <p>漬物 伝統的な保存方法で。</p> <p>家庭菜園 庭やベランダ等も活用して菜園を。</p>

ローリングストックの実際

家族人数×7日分(1人21食分)、水は成人1人あたり3ℓ/日×7日分(1人21ℓ)が備蓄する目安です。

普段の食事食べている、米、水、乾物、ジャガイモや玉ねぎなどの日持ちする野菜、おやつなどを多めに購入しましょう。

使いきる前に、使った分をその都度買い足すことで、常に食料がストックされている状態になります。



ローリングストックの食品選びのポイント

- ① 開封後しばらくもつもの、もしくは、使い切りサイズのもの
- ② 常温で保存できるもの
- ③ そのまま食べられる、もしくは、調理が簡単
- ④ 調理後、生ごみが出にくいもの

おすすめは、パックごはん、乾麺、乾燥野菜、乾物調味料、ホットケーキミックスの粉、粉末スープ、レトルトの惣菜やパスタソース、ペットボトルやウォーターサーバー用の水、野菜ジュース、魚肉ソーセージ、油などです。

食品と併せて準備しておきたいものが、カセットコンロです。災害時にガスや電気が止まった際に熱源として非常に役立ちます。ガスボンベ 1 本で約 1 時間程度使用可能です。内閣府のホームページでは、カセットボンベを 15～20 本買い置きしておくことを推奨しています。

具体的な食品などを知りたい方は、下記農林水産省のホームページをご覧ください。

参考) 内閣府防災情報のページ <http://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h25/73/bousaitaisaku.html>
農林水産省ホームページ <https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/foodstock/network/rolling.html>

◆防災リンク集

非常持ち出し品をチェックしよう！

いざという時に備える「非常持ち出し品」のチェックリストを参考に、必要な物の用意を進めておきましょう。下記の「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターホームページ」からダウンロードできます。

人と防災未来センターホームページ お役立ち 減災グッズチェックリスト
http://www.dri.ne.jp/utility/utility_checklist



災害に備えて住宅や家財にも安心を

兵庫県には、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえて、災害発生時に被害を受けた住宅や家財の再建・購入・補修を支援する、「フェニックス共済」(兵庫県住宅再建共済制度)があります。

フェニックス共済(兵庫県住宅再建共済基金) ホームページ
<http://phoenix.jutakusaiken.jp/>



赤穂防災士の会

1年余りの準備期間の後、2016年4月23日設立、地域の防災力向上のために社会貢献したいという思いで、現在、建築士、看護師、民生委員、消防団分団長、介護士、教師、元保育士など多彩なスキルを持った15名の会員で活動しています。



- ・自治会、自主防災組織の防災関連イベント参加、防災訓練の支援・提案
- ・子ども、女性、高齢者を対象とした防災教室や企画・運営
- ・教育・福祉関係での防災・減災活動の指導・講話

会員みんなで、協力し合って活動しています。西播磨地域どこへでも馳せ参じますので、赤穂防災士の会にお問い合わせ下さい！連絡お待ちしております！！

連絡先：赤穂防災士の会 TEL 090-8206-1079(金井)

たいし防災リーダー会

事務局である、太子町総務部企画政策課の呼びかけで2015年に太子町内の防災活動の精神を志す有志が集まった「太子町防災リーダー会」が発展的に「たいし防災リーダー会」として、2017年4月1日地域防災力の向上と太子町の防災・減災活動に寄与することを目的に発足しました。

会員資格は、太子町内に在住または勤務する「ひょうご防災リーダー講座修了者」で構成し、現在の会員数は21名です。

活動内容としては、太子町防災訓練への参加、太子町ジュニアリーダー養成講座での出前講座、「赤穂防災士の会」とのコラボで兵庫県防災講座への参加、他の地域の「防災会」などとのコラボ活動、太子町内自治会での出前講座などを行っています。

連絡先：太子町総務部企画政策課地域安全係 TEL 079-277-5998



編集後記

私たち西播磨地域ビジョン委員会安全第一チームは、平成30年4月から今回の西播磨地域高校生防災サミットの開催に向けて会議を重ね、準備を進めてまいりました。

今回の開催にあたりメンバーと話し合う中で、高校生のためになる内容を充実させていくことが大切であるとの意見が多くあり、その方針のもとプログラムを企画しました。冒頭の主旨にもあったとおり、各高校の皆さんの発表に加え、ワークショップを実施することで、より実践的に学んでいただけるプログラムにできたのではないかと考えております。サミット当日においては、他校の発表に熱心にメモを取ったり、質問したりする生徒が多く見受けられ、チームの活動方針・目標は概ね達成できたのではないかと考えています。

本冊子を作成したのも、当日参加された高校生には内容を振り返るとともに学んだことを忘れず次に生かしていただけるようにという思いがあったからです。もちろん参加できなかった方にとっても当日の様子や内容を知る一冊になれば幸いです。

最後になりましたが、サミット当日まで発表準備等に多くの時間を割いていただいた高校の皆様、前日準備を含め会場設営、運営にご協力いただきました防災士の会の皆様、西播磨地域ビジョン委員の皆様、事務局の皆様、本当にありがとうございました。

企画・編集

第9期西播磨地域ビジョン委員会 安全第一チーム

リーダー 田淵 誠人
副リーダー 金井 貴子 金治 正和
メンバー 遠入 宏昭 岡西 清治
小河 摩佐子 蔭山 哲博
武本 篤治 鳥山 英樹
水田 茂





兵庫県ホームページ（西播磨地域ビジョン委員会の活動状況）
URL : <https://web.pref.hyogo.lg.jp/whk02/vision/iinkai.html>



Facebook ページ(ネット de 応援し隊)
URL: <https://www.facebook.com/nettodeouensitai/>

【西播磨地域ビジョン委員会 事務局】

〒678-1205 兵庫県赤穂郡上郡町光都2-25

兵庫県西播磨県民局 県民交流室 県民活動支援課

TEL 0791-58-2115 FAX 0791-58-0523